まちづくりチャレンジ事業　団体連携部門

第2回金沢竹灯ろう祭り

四十万きずな町会
NPO法人 みんなの畑の会

ー企画・構成人数ー
NPO法人 みんなの畑の会　280人
サポーター会員　70人
NPO法人39アース　15人
3町会　20人
PAT　40人
金沢国際ホテル　5人

金沢竹灯ろう祭り
能登の鎮魂と復興
世界平和を祈念して

日時：2025年10月18日(土)
19日(日) 予備日
場所：金沢市 四十万きずな広場

『人と自然』の環境を次世代に繋ぎ、
新たな住民交流をめざして・・・

竹灯ろう祭り開催の意義と目的

1，高齢化と後継者不足で放置された竹林を、ボランティアを楽しみながら、地域の環境を守ります

2，新しい人の『輪と和』で地域交流が拡がり、次世代に繋がります

3，被災された皆さんと共に、復興を目指し 『竹』の資源活用化で新たな “なりわい„ の創出を目指しています

地域の課題

◎土地は地主さんのモノ　環境は将来の子供のモノ

◎新しい人の 『輪と和』 で　次世代に繋ぐ為

・**高齢化と後継者不足**による放置竹林が拡がり、クマ、イノシシ、シカ、猿などが増え、地権者や行政に頼るだけでは里地里山の安全安心は守れません。

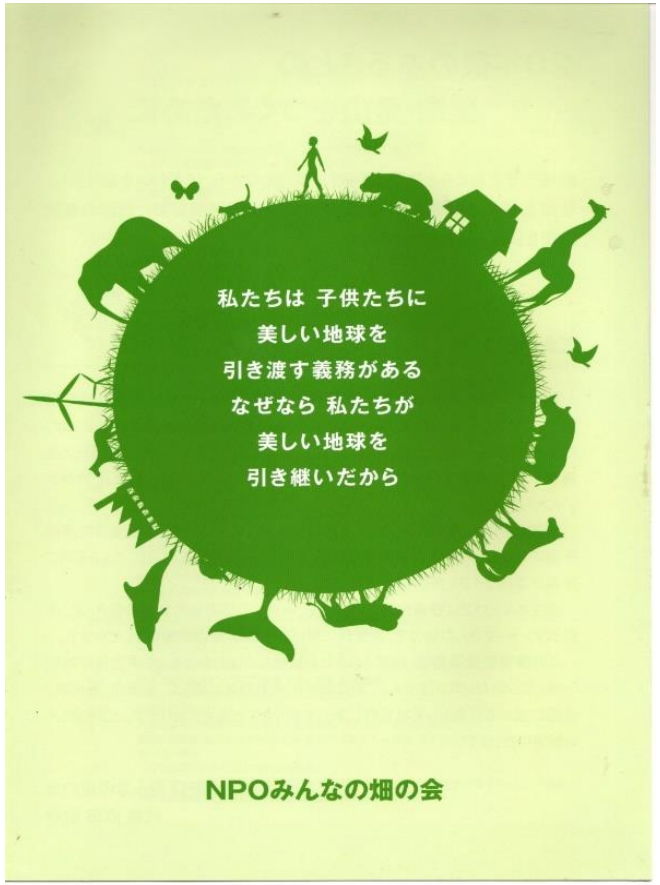
・後背地の放置竹林で　山に棲む動物と人間との**緩衝帯づくり**を進めています。

・一方、**町会運営、校区内の活動が難しくなって町会のお祭りなどの事業も廃止**の状況が増えて来ています。

地域コミニュテイー作り

【人と自然の環境保全】を目的に耕作放棄地を活用して交流を深める場所として9年前　市民農園【みんなの畑】を開設

新しい人の『輪と和』の助け合いが拡がっています



【私たちは美しい地球を引き渡す義務がある】

なぜなら

【私たちが美しい地球を先人から引き継いだから】

・・・を理念として、みんなの畑の会を設立

災害支援活動

(19) 金沢 2024年(令和6年)2月16日(金曜日) 北國新

四十万小で被災者支援

持ち帰り自由 体育館に物資

支え合ってともに 1.1大震災

家電や食器、衣類…

地元NPOが企画

四十万小校下のNPO法人と同校は15日までに、能登半島地震の被災者向けに学校体育館に支援物資を集めて無料配布する取り組みを始めた。家電や食器類、衣類などさまざまな物資があり、自由に持ち帰ることができる。避難所を出て金沢で暮らそうとする人らを応援する目的で、NPOは「行政のサポートが届きにくい部分を補完したい」としている。

NPO法人「みんなの畑の会」が、四十万地区の町会に直接声をかけるなどして物資を募った。同会は四十万小に対し、物資の保管場所として体育館を使用できないか相談。脇田誉志昭校長は「児童が被災者支援を身近に考えるきっかけになる」と快諾し、体育の授業に支障のない範囲でスペースを提供した。

体育館には地域住民ら約100人から寄せられたテレビや暖房器具、衣類、食器などが集まった。畑の会と四十万小は12日から毎日午前9時～午後3時に体育館を開放し、被災者は入り口で名前と住所を記入するだけで好きな物資を受け取れるようにした。既に100人以上が利用したという。

輪島市名舟町の自宅が全壊し、老人福祉センター鶴寿園（額谷町）に身を寄せる堂下美智子さん(66)は近く津幡町のアパートに入居する予定で、新生活に向けて皿や冷蔵庫、鍋などを持ち帰った。堂下さんは「自分たちで生活を立て直さなければならず、本当にありがたい」と感謝した。

畑の会代表理事の西田敏明さん(77)は「市民団体ならではスピード感をもって被災者の力になりたい。必要な物資や、提供できる物があったら会まで連絡してもらいたい」と話した。

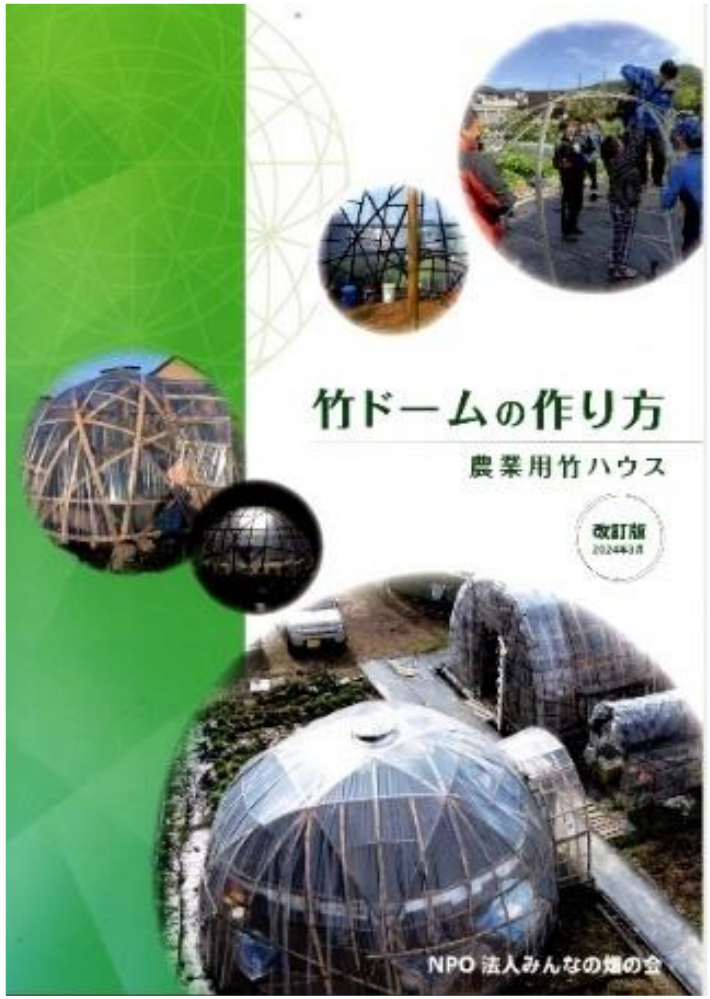
同会は輪島市の避難者が暮らす額谷ふれあい体育館に掲示板を設置し、支援者と物資を必要とする被災者のマッチングにも取り組んでいる。

電化製品や日用品を整理する関係者＝四十万小

昨年の発災後すぐ、額谷ふれあい体育館に輪島から集団避難の180名の皆さんへの炊出し支援、みなし生活を始める皆さんに生活支援物資の提供、癒しのイベントなどを続け、延べ45,000人の方々がNPO法人みんなの畑の会が開設した、のと支援物資センターに来て交流して参りました。

※定款に災害時の支援活動も表記しています

目指していること



・現在竹を資源として活用し、【竹が能登を救う】をタイトルに能登の皆さんとも連携して、能登での “生業の創出„ のプロジェクトを立ち上げ支援を進めていますが、【竹ドーム】【竹ハウス】【竹パウダー】【ポーラス竹炭】などの普及を提唱して、全国へ【竹】 資源の活用の発信を進めています。

無煙炭化器によるポーラス竹炭づくり
不登校の親子さんの参加でできた『ポーラス竹炭』は
委託販売所で販売して、売上をお返ししています

不要竹を粉砕機で 『竹パウダー』にして、有機農法に併用活用しています

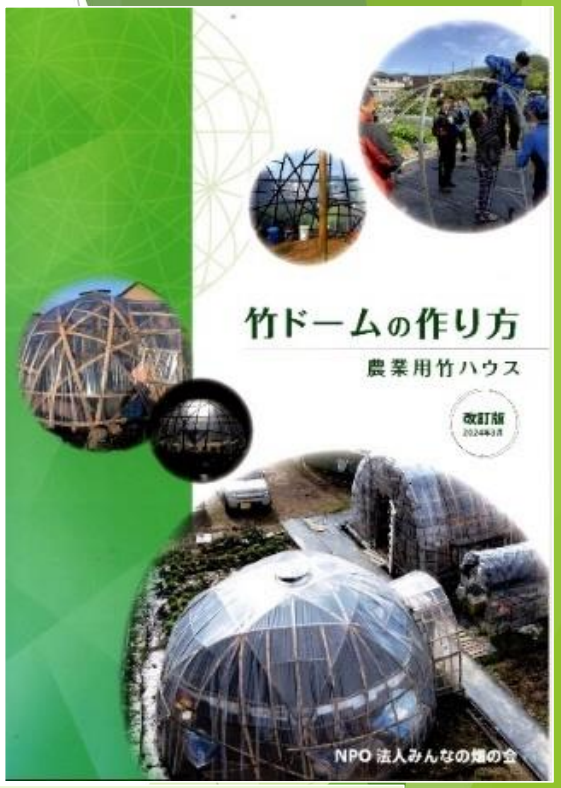
食の安全に『竹』の活用

【竹パウダー】【ポーラス竹炭】を有機農法に活用

食育と子供たちの健康のために

四十万小学校　教育田みんなの田んぼ（市民農園しじま園内）、市民農園会員　田んぼ部（市民農園四十万南園内）などで使用しています

伐採竹の利用



竹ドーム、竹ハウスの普及活動、
雪、風に強く農業用ハウスの普及活動を進めています
能登の放置されている “竹„ を使って、新たな産業創出の応援を進めています。
『竹ドーム』に続き、『竹ハウス』の作り方のマニュアル作成のご要望があります。
養蚕、水耕栽培による新農業など　竹ドーム　のキット化も進めています

なぜ　竹灯ろう祭り？

・里山の緩衝帯づくりで、環境保全と**竹の資源活用が可能**となり、協力して作業を行うことで**住民の交流が深まります**。

なぜ　竹灯ろう祭り？

・里山の放置された竹林問題、将来の子供たちの環境保全は地域全体で考える必要性があり、子供から高齢者までが参加して、地域の協働文化事業として次世代に繋がるイベントになることが理想と考えています。

なぜ　竹灯ろう祭り？

・金沢周辺で生活の約3700名のみなし生活の被災された方と共に 一斉点灯

能登を想う

鎮魂と復興

一基500円の奉灯の収益は被災者支援に活用いたします。

※残りの竹灯ろうはお祭り終了後、ポーラス竹炭にします

なぜ　竹灯ろう祭り？

このお祭りはNPO法人３９アースが金沢市新保町で開催していた竹灯ろう祭りを参考に、２２年、２３年市民農園内で開催して参りましたがＮＰＯ法人３９アースのイベントが地域の高齢化と人口減少で継続が困難になりました。
ＮＰＯ法人みんなの畑の会と協働主催で次世代に繋ぐお祭りとして…
又、開催エリアを変更することで事業継続を提案。

なぜ　竹灯ろう祭り？

そして昨年は
みんなの畑の会と39アースの単独事業であったが・・・

今年の竹灯ろう祭りへの思い

・地域、そして行政と一緒にこの事業を実施、そして次世代に繋ぐ人と自然の環境を守るお祭りとして継続していきたい・・・

・地域住民からは、町会も参加して、今後も開催して欲しいという声もあり、何とか定着事業として継続できるよう検討している。

・自走できるプランを模索中です。

今年の竹灯ろう祭りへの思い

・地元町会も協働イベントとして、子供から高齢者の皆さんの参加で住民の交流が深まって、将来は金沢のお祭りとして次世代に残る事業になって行くことを願っています。

ご清聴ありがとうございました。

宜しくお願い致します。